

平成17年度福井県経済社会活性化戦略会議第3回会議概要

《日時》	平成17年10月25日(火)	10:00~12:00
《会場》	福井県庁7階	特別会議室
《出席者》	有馬 義一	敦賀海陸運輸(株)取締役社長
	稲山 幹夫	稲山織物(株)代表取締役社長
	加藤 秀雄	福井県立大学経済学部教授
	新町 光示	(株)ジャルパック代表取締役会長
	馬場 修一	日本労働組合総連合会福井県連合会長
	三田村俊文	(株)福邦銀行取締役頭取
	山本 雅俊	福井県副知事
	吉野 浩行	本田技研工業(株)取締役相談役
	吉村 豊子	(株)吉村甘露堂取締役相談役
《欠席者》	天谷 祥子	学校法人天谷学園理事長
	三屋 裕子	(株)シャルレ代表取締役社長
	堀田 健介	モルガン・スタンレー・ジャパン・リミテッド会長
	八木誠一郎	フクビ化学工業(株)代表取締役社長

《会議概要》

○開会

〔知事〕開会に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。皆様方には、ご多忙の中、平成17年度福井県経済社会活性化戦略会議第3回会議にご出席いただき、お礼申し上げます。

本県経済は、個人消費はほぼ横ばいで推移しており、生産活動は、繊維工業で弱い動きがみられるものの機械工業が堅調な動きを示すなど、緩やかに持ち直しているところです。

雇用情勢については、8月の有効求人倍率が、全国平均の0.97倍を上回り、1.35倍であり、29か月連続で前年同月比プラスとなるなど、改善の動きが続いています。

こうした景気回復の流れを拡大していくため、一層、努力していかねばならないと考えています。

本日は、経済の活性化の主要課題である「新規創業・経営革新」について、意見交換をお願いしたいと考えています。

魅力ある就業の場を創出し、また、経営革新などにより、企業の経営力の向上を図ることは、所得、税収、消費の増加など様々な経済波及効果が期待されるものであり、こうした課題について、今後、さらに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、前回の会議で議論した「ふくいブランドのトータルマネジメント」のうち、分野ごとにターゲットを絞った方策についても、意見交換をお願いしたいと考えています。

本日も、委員の皆様には、民間の視点から幅広い意見をいただきたいと考えており、よろしく申し上げます。

なお、本県では、10月22日から11月3日まで、「第20回国民文化祭・ふくい2005」を、県内全市町村を会場に開催しています。本県が育んできた歴史文化、伝統文化、精神文化を全国の人達に発信するとともに、「健康長寿」な「元気な福井」を広くアピールするなど、祭典の成功に向けて、全力で尽くしている。委員の皆様にも、この機会に広くこのイ

ベントに触れていただければ幸いです。

○新規創業・経営革新

〔議長〕では、それでは、早速、議事に入る。本日は、まず、今回の会議のメインテーマである「新規創業、経営革新」について、意見交換をした後に前回、議論した「ふくいブランドのトータルマネジメント」について、意見交換を行いたいと思う。

では、まず、「新規創業、経営革新」について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕資料1に基づいて説明

〔議長〕続きまして、建設業における経営革新について、説明をお願いします。

〔事務局〕資料1（P12）に基づいて説明

〔議長〕ただいまの説明を受けて、各委員からご質問等を含め、自由に発言をお願いします。

〔委員〕県が政策的に創出した新規創業の481件の中で製造業は58件とのことだが、全体の2、481件の中では、製造業は何件か。

〔事務局〕現時点では不明である。

〔議長〕知事の元気宣言にもある事項であり、2年間の2、481件の仕分けをしていただきたい。

〔委員〕産学官連携について、うまくいきつつある企業はあるのか。そういう成功している例を情報発信したほうがよいと思う。福井県はこじんまりしているからやりやすいのではないか。産学官の取組みにおいて、全国で有力な大学は地域の大学である。東京大学は、東京都は支えていない。地域の産学は強い集客力を持っている。

〔議長〕学校も法人化されて意識が変わってきた。中小零細企業に大学が歩み寄ってきた。

〔委員〕それには、いい例を出すことが大事。ネガティブな事項を克服することも大事だけれど、企業がやる気にならないといけない。

〔委員〕P14にもあるように、「接点がない。」という企業が多いと思う。今やっていることから、ちょっと変わったよ、というレベルにも支援すべきだと思う。ちょっとした一歩になるような支援も産学官の中では対応するというような発想をすれば変わっていくと思う。

〔委員〕産学官の資料が古い。調査を再度、行った方がいい。

〔委員〕交流が始まった企業が困っている例をアドバイスする。産学官については、北九州市が早い段階からやっている。協力する仕組みを今から考えていくことが必要だと思う。

〔事務局〕従業員4人以上の3、100社のうち工業技術センターに相談があるのは、2、025社。アンケートをすると、約400社から回答があり、主としてこの企業を対象に、産学官の裾野を広げている。

〔委員〕481社のうち女性の創業はあるのか。

〔事務局〕5社程度ある。

〔委員〕官が民に支援する施策が多いのには、びっくりする。ただ、ゼロサム的な面があるわけで、開業があれば廃業があると思う。地産地消も必要だが、小さい県はハンデキャップがあり、これを打開しようと思うと、目を外に向けることが大事だと思う。外への世界の関心とアクションを起こす必要がある。大都市圏とか中国とか。福井県で中国のビジネスがどれだけ増えているのか、統計があるのか。外を攻めないといけない。そうしないとゼロサムの限界がある。

〔委員〕中国向けが伸びているかということ、輸出が少なくなっている。増えてはいない。止まっている。

- [委員] 上海事務所は直接的な実績はあるのか。
- [事務局] 上海事務所です直接売っている例は数件ある。福井県の情報提供もやっている。
- [委員] 海外事務所は、情報提供だけではなく、要求も。中国はマーケットとしては大きい。
- [事務局] 福井県の企業が中国に進出している企業は125社ある。
- [委員] それらの企業の実績も福井県の企業の実績につながってくる。福井県は、人口80万、中国は10数億だし。
- [事務局] 北陸三県の中では、本県の中国への進出企業は多い方である。
- [委員] 中小企業がうまくやるためには、能力がある人が現地に出向かないと商売が成り立たない。ただし、そうすると国内がうまくいかなくなってしまう。ジレンマに陥ってしまう。短期的にはうまくいくのかもしれないが、長期的には、はたして続くのか。
- [委員] 全国レベルの統計だと、部品レベルの輸出が伸びていたのが、鈍化してきた。中身が変わってきた。
- [委員] 中小企業施策は、次々と新しいものがある。新しいネーミングで予算化してきている。
- [委員] 新連携支援については、異業種交流を否定してしまって、売上につながるものを支援している。中小企業学会でも新連携に流れが変わっているが、決してそれがいいとも言い切れない。国の施策にのらなくても、よいのではないか。福井は福井の違った連携の仕方、福井らしさが出てくるのではないか。
- [議長] 即効性があることは、中々できない。民でやることは民でやることも大切ではないか。先日、元気企業フェアに行ってきたが、これはもっと拡大したほうがよい。関係する企業だけでなく、もっと一般の人を対象にすべきではないか。士気を鼓舞されるのではないか。もっと拡大してほしい。
- [委員] 官主導で民を誘い込む。各県とも同じようなことをやっている。福井県の意欲は強い方なのか、弱い方なのか。他県が進んでいる分野が見受けられる。県民性なのか。銀行、証券、信託会社など民の力を発掘し、奨励するような意識改革的なものをつくり上げるべきである。制度を先行させて課題追求して活性化するのか。活性化の指標は何なのか。若干、停滞気味ではないか、制度的なものでなく、ファンダメンタルなところに手をつけないといけないのではないか。部分的、パッチワーク的な課題でおさまるのか。ファンダメンタルなところに手をつけるべきではないか。伸びているのなら問題ないが、伸びていないなら手をつけるべき。原因が何か、本質的なものがあるのではないか。どう評価していいのかわからない。
- [事務局] 開業率、廃業率は低い。大阪あたりでは、進出企業に売込みがあるのに、福井は少ない。冒険を犯す人が少ない。そういう意味でのファンダメンタル的な障害になっている。
- [委員] 不安をなくすために、親方日の丸的になっているのではないか。民間資金を入れたらどうか。要は、意欲を高めて民の活力を高めること。
- [委員] 福井元気宣言に基づき、県として、行政として、民間の活力を行政がどこまでタッチすべきなのか分析すべき。フォローを行政ができるのか。廃業がどういう形でなされているのか、プロセスを押さえるべき。新規創業、廃業がイコールではトントンになってしまう状況が生まれてしまう。立ち直るための施策を議論してもいいのではないか。廃業に行政が支援できる部分はないのか。民が主導であって、官がどこまでフォローできるのか。
- [議長] 企業の環境が変わっているときは、官が前に出て民を浮かび上げるように、官は民のサポートをすべき。業種ごとに官がてこ入れして自信をもってサポートしてほしい。できるだけ、一歩二歩踏み出してサポートしてほしい。
- [知事] 商業や建設業など個別にあるが、外に出て行く。新しいところに進出するのが、これ

からの課題である。福井県だけでやっているといつものプレーヤーになりがちである。外向きなことも考えなくてはいけない。原子力関係は拠点化計画に基づいてやっているが、外へ向いてやるのが、弱い分野だと思っている。内輪で連携してもレベルアップ、グレードアップしない。

〔委員〕企業誘致は少し動き始めている。外から新しい血を入れ、地域にとって刺激が与えられる。企業にとっては、営業提携、県内外含めいろんな挑戦・展開ができる時代ということ踏まえ企業活動の支援をしていくことが大切である。

〔委員〕新規創業は景気がいいときにはやりやすいが、掛け声だけでは非常に難しい。かくれた人材は女性や若者である。優秀な人材ほど、福井に帰ってこない。帰ってきてても公務員になってしまう。福井に帰ったら面白いことができるというPRをして、若い人、女性の新規創業の受け皿をうまくつくってはどうか。

企業内ベンチャーについては、今は慎重になっている。新しく法人化して新会社にするのではなく、そういう芽を育てるのも大事。繊維も芽は出ている。大化けするかどうかはしれないが、そういう制度をつくってほしい。

〔委員〕企業内ベンチャーは続けたいが、マーケティングについて意見はないか。

〔委員〕291は電通に委託したのか。新しいことが始まっているのか。

〔事務局〕10月1日から県内産品のPR、マッチングをしている。

〔委員〕半年間は様子を見ている。

〔委員〕各県にアンテナショップがあるが、人通りの多いところにある。立地条件をどう評価するのか。海外事務所はオフィスとしての機能は持っているのか。実績は実証されているのか。

〔事務局〕商談件数は76件、情報提供は200件、個別アテンドは50～60件。ホームページに情報提供をしたり、年に1～2回帰国報告会をしている。

〔委員〕現地の人間を雇ってから、活動の質が変わった。日本人では難しい。

○「ふくいブランド」のトータルマネジメント

〔議長〕時間の関係もあるので、「ふくいブランド」のトータルマネジメントに入ります。まず、事務局から資料2について説明をお願いします。

〔事務局〕資料2に基づいて説明

〔議長〕ただいまの説明を受けて、各委員からご質問等を含め、自由に発言をお願いします。平均以上のものもあるが、インパクトがないのではないか。

〔知事〕ちょっとした土産、ちょっとした包丁などがない。

〔議長〕八方美人ではだめ。1、2、3押さえてやるべき。

〔委員〕県が施策をすると、公平平等になる。観光連盟に移して、ある程度重点的に実施するようにした。

〔委員〕福井のスイカが中国の上流階級に売れているらしい。青森のりんごが、国内では100円のものも千円で売られている。大分のなしも中国で売られている。福井県のスイカは大分出荷されているのか。

〔事務局〕評判はいい。今はまだ、サンプル段階。来年からやっていきたい。

〔委員〕部分的に考えていると、難しい。地場の物産で評判がいいのは、大分県。以前、一村一品運動で全国に知らしめた。平松知事のとときの取組みがきっかけとなって動機付けとなった。「すいか」「米」を一村一品的に。米は池田町の米が日本一うまい。新潟の魚沼産よりう

まい。しかし、消費者が動かない。電通にその辺のことも聞いたらどうか。

〔委員〕宅配便の統計があるのか。291で継続的に発注されているものもあるか。

〔委員〕池田町の季節の品、おふくろの味セット、米という評判のいい贈答品を直接頼んで、販路が広がる。県として支援してはどうか。何かのきっかけで大きく動き出す。

〔事務局〕中央に行き届かない。

〔委員〕福井の水を関西から取りに来ている。

〔議長〕福井だけにしかない物の方が、迫力がある。

〔委員〕最近の中学生の修学旅行は行き先を選べる。どこかの県に行こうと思ったときに、子供向けのホームページがあるといいのではないか。

〔委員〕整理表に伝統工芸品が抜けているのではないか。丹南が取り組んでいる伝統工芸品をまとめてやるのはいい企画。

〔議長〕伝統工芸品は、人材を養成するしかけをしないといけない。後継者を集める工夫をしないといけない。

〔委員〕まとまると、力になる。

○閉会

〔事務局〕貴重なご意見をいたたぎ、ありがとうございました。次回は11月に開催したいと思うのでよろしく願います。

以 上